

第13分科会 特別支援教育

中学校特別支援学級に在籍する生徒にとって、より効果的な進路指導

～ 個に応じた進路に関する学習の指導・支援の在り方 ～

1. 設定理由

現在、千葉市内の中学校特別支援学級に在籍する生徒は300人を超えている。また、特別支援学級の担任は約70人に及ぶが、経験年数が5年未満のものが約半数を占めているうえ、特に一人担任の学級では、運営面や指導面で悩みを持つ教員も多い。生徒たちの進学先は、県立、市立特別支援学校高等部のほか、千葉市立高等特別支援学校をはじめとした「職業コース」、公立・私立高校、サポート校と多岐にわたっており、指導・支援も複雑化してきている。

中学校の特別支援学級に在籍する生徒たちにとって、この三年間は保護者とともに自分の進路選択を考え、決定していく極めて重要な期間であり、日々の学習の中で生徒一人ひとりにどのような指導・支援が必要か、何が身についたかを一つひとつ確認していくことが重要である。各学校の運営形態が違う中、日々の学習と将来に結びつけられる学習計画の構築に努めなければならない。そこで、各学校が行っている「進路に関する学習」について課題と指導実践の共有化を図る必要があると考えた。生徒にとって効果的な指導・支援が行われることで一人ひとりが抱えている課題が解消されていけば、教員のスキルアップとなり、さらに、個に応じた「自立」へと繋がっていくであろうと本主題を設定した。

2. 研究仮説

- (1) 各校の進路指導について調査することによって、課題が明確となるであろう。
- (2) 実態調査から明らかになった課題に沿った提案授業を行い、協議することで効果的なモデル授業ができあがるであろう。
- (3) モデル授業と同様な実践を各校で行い、情報交換することで、個に応じた多様な進路指導を学ぶことができ、教員のスキルアップに繋がるであろう。

3. 研究内容

- (1) 千葉市内全特別支援学級全体への進路に関する学習の実態調査および考察
- (2) 代表校による提案授業の実施およびモデル授業の構築
- (3) 各校でモデル授業を実践し、情報を交換する

4. 結 論

実態調査では、各校の指導・支援のとりくみから課題が明確になった。それを受けて、指導実践の共通理解・共有化を図り、進路指導のモデルを示すことができた。また、最新の進路情報の収集や、生徒の実態に合わせた各校の工夫を具体的に知ることができた。今後も教職員どうしの連携を図り、共に話し合い、より良い指導・支援のあり方を模索していく必要がある。このとりくみを通して、生徒・保護者、教員がともに目指すところは、卒業後の「自己実現」と「社会参加」を図ることであると再認識することができた。

中学校特別支援学級に在籍する生徒にとって、より効果的な進路指導

～ 個に応じた進路に関する学習の指導・支援の在り方 ～

1 設定理由

現在、千葉市内の中学校特別支援学級に在籍する生徒は300人を超えており、知的障害、自閉症・情緒障害、発達障害などさまざま、重複・多様化してきている。それに伴って、生徒たちの進学先も、県立、市立特別支援学校高等部のほか、千葉市立高等特別支援学校をはじめとした「職業科」、公立、私立高校、サポート校と多岐にわたっている。また、就職を選択する生徒もあり、進路の指導・支援も複雑化してきている。

一方、特別支援学級の担任は約70人に及ぶが、経験年数が5年未満のものが約半数を占めており、初めて特別支援教育に携わる者も多い。また、学級規模や障害種に応じて5人の担任がいる学校もあれば、担任が1人の学校もある。1人担任の学級では、校内に相談する相手が少ないことから運営面や指導面で悩みを持つ教員が多い。昨年度、千葉市特別支援学級全体への実態調査調査を実施したところ、どの学校も就労や進路選択といった卒業後の進路に向けた指導・支援の方法について共通の悩みを持っていることが分かった。

中学校の特別支援学級に在籍する生徒たちにとって、この3年間は保護者とともに自分の進路選択を考え、決定していく極めて重要な期間である。何よりも本人の思いに耳を傾け、生徒に寄り添った進路指導が大切であると考え。進路指導は「生徒が自らの生き方を考え、将来に対する目標を持って、主体的に自己の進路を選択し、生涯にわたる自己実現を図っていくことができるような能力や態度を育成する」ことをねらいとしている。単に進路指導は、進路先を決定するためだけのものではない。卒業後の人生を充実させるための自己選択、自己決断力、すなわち生徒の主体性を育てる指導でもある。自立と社会参加にむけて、生徒に将来の目指す姿をどうイメージさせていくのか。そのためには、日々の学習で、何ができるようになるか、何を学ぶのか、生徒一人ひとりにどのような指導・支援が必要か、何が身についたかを一つひとつ確認していくことが重要であろう。また、意思表示の方法を獲得していくことや現場実習を中心として体験的などりくみを行うことも必要である。各学校の運営形態が違う中、日々の学習と将来に結びつけられる学習計画の構築に努めなければならない。進路に関する学習は、卒業学年になってからでなく、早期から一貫して、本人・保護者のニーズ、地域性、家庭環境等を考慮しながらとりくむことが必要である。

そこで今回、各学校が行っている「進路に関する学習」について、課題と指導実践の共有化を図る必要があると考えた。生徒にとって効果的な指導・支援が提供されることで、一人ひとりが抱える課題が解消されていけば、そのとき、初めて「自立」した社会人へと近づいていくであろうと本主題を設定した。

2 研究仮説

- (1) 各校の進路指導について調査することによって、課題が明確となるであろう。
- (2) 実態調査から明らかになった課題に沿った提案授業を行い、協議することで効果的なモデル授業ができあがるであろう。
- (3) モデル授業と同様の実践を各校で行い、情報交換することで、個に応じた多様な進路指導を学ぶことができ、教員のスキルアップに繋がるであろう。

- (1) について 現在、市内の中学校の特別支援学級は年々増加し37校88学級となっており、担任数は74人となっている。特別支援教育の経験年数が5年未満の担任が約半数を占めている。この背景から、進路指導について不安を抱く担任が多い。そこで、市内の中学校特別支援学級の担任に進路指導の状況調査を行うことで、課題が明確になると考えた。
- (2) について 実態調査から明らかになった課題を解決できるような提案授業を代表校で行い協議することで、効果的なモデル授業を作っていきたいと考えた。
- (3) について モデル授業をもとに市内各校特別支援学級で学級の生徒の実態に合わせた授業を展開し、それを情報交換することによって、個に応じた多様な進路指導を学ぶことができ、教員のスキルアップに繋がるであろうと考えた。

3 研究内容

(1) 進路に関する学習に関する実態調査

進路に関する学習については生徒が自らの進路に関心を持ち、主体的に考える態度を育てることが大切である。これは、自らが希望しない進学先や就職先に進んだ場合、長続きしなかったり、不適応を起こしてしまったりすることが見受けられるからである。このような状況を踏まえ、千葉市内の特別支援学級設置の中学校に進路に関する学習に関する実態調査を実施した。

①実態調査の実施方法

- ア 千葉市内全特別支援学級設置校にアンケート用紙を配付（資料1）
- イ アンケート回収（35校中22校回収）
- ウ アンケートの集約

②実態調査の結果及び考察

実態調査の項目と回答内容は以下の通りである。

ア 進路に関する学習の学習時期及び期間

進路に関する学習は、通年で実施している学校が多かった。しかし、通年で行っている指導とは別に職場実習や受検に合わせて特定の学年の生徒を対象に特定の時期に指導を行っている学校も多く見受けられた。

イ 進路に関する学習を展開した教科

総合的な学習の時間、生活単元学習、自立活動、日常生活の指導などの授業で進路に関

する学習を取り扱う学校が多かった。また、学校によっては国語や社会などの教科の中で進路や受験に関する内容を展開しているケースもあった。

ウ 進路に関する学習の具体的内容

- ・日常生活全般に関する指導（あいさつ、返事、報告、連絡、相談、言葉遣い、清掃など）
- ・上級学校について調べる学習
- ・「働く」ということについて考える学習
- ・職場体験や職場実習に向けた事前・事後指導
- ・将来、独立して生活する際の費用を知る学習
- ・面接練習
- ・先輩の働く姿を見学する活動
- ・履歴書や願書の書き方
- ・親など身近なおとなに取材をし、職業について調べる学習
- ・作業学習やバザーでの活動を通して、働く際の心構えについて学ぶ
- ・学級内で職場体験や職場実習の報告会を行い、上級生から働くということについて話を聞いた
- ・中学校卒業後、様々な進路先があることを知る
- ・自分自身の特性について考える

どの学級も生徒の実態や興味・関心に応じた内容を展開していた。しかし、共通している特徴として、

- 日常生活全般に関する指導（あいさつ、返事、報告、連絡、相談、言葉遣い、清掃など）を学校生活の中で折にふれて行っている。
- 上級学校について知ったり調べたりする活動を行っている。
- 働くということや職業について考えたり調べたりする活動を行っている。
- 職場実習や職場体験の事前・事後指導を通して進路に関する学習を取り扱っている。

以上の4点などがあげられる。

エ 進路に関する学習を行う際に、教材や言葉かけ等で配慮した点

- ・身近な事例や生徒の興味を引き付ける題材を教材として取り上げた。
- ・スライドや大型テレビを活用するなど、視覚に訴えるように工夫した。
- ・生徒の実態に応じて、複数のワークシートを用意した。
- ・生徒の実態に応じて、意思表示の方法を複数用意した。
- ・将来の夢や色々な職業などについてイメージをもちやすいように支援した。
- ・生徒に対して、「特別支援」、「障害」といった言葉をできるだけ使用しないように心がけた。
- ・学校見学の事前学習の際に、「どんな作業をしていたのか」など具体的に見てくるポイントを伝え、参加する意味をもたせるようにした。
- ・卒業後の進路について、フローチャートを活用して説明を行った。
- ・授業で3年生が職場実習後に作成したレポートを教室に掲示し、下級生も進路に関心をもてるようにした。

どの学級でも、進路に関する学習については、生徒の実態に応じて教材や言葉かけを工夫していた。教材に関しては、生徒の興味・関心がもてる題材、生徒にとって具体的な卒業後の生活をイメージしやすく働きかけていた。言葉かけに関しては、進路を自分自身の問題として捉えられるように配慮していた。

オ 進路に関する学習の指導をしていて悩んでいること、相談したいこと

- ・ 個々の生徒の実態の差に合わせた指導内容や展開について
- ・ 保護者との共通理解の図り方
- ・ 進路選択が多種多様であり、一人ひとりの適性をどのように見極めたらよいか
- ・ 将来、どのような社会参加ができるのか具体的な資料の共有化をして欲しい
- ・ 授業時数の確保
- ・ 療育手帳を取得できない生徒の進路

多くの学級で、進路に関する学習を実施するにあたり様々な悩みを抱えていることが分かった。中でも多かったのが、「個々の生徒の実態の差に合わせた指導内容や授業展開をいかにして行うか」という点である。

(2) 提案授業の実施

実態調査の結果を踏まえ、「身近な事例や生徒の興味・関心がもてる内容を教材として取り上げる」、「生徒の実態差に応じた教材を工夫する」ことなどに重点を置いた提案授業を行った。

ここ数年の特別支援学級の卒業生を見ると、特別支援学校だけでなく普通高校やサポート校等、進路先も多種多様になってきた。こうした状況は学級の生徒にとってはまさに「生きた教材」に他ならないと考えた。卒業生が経験した進路についての考え方や生き方を知ることができれば、自己の進路への関心が高まり、具体的な目標をもつことができるようになると考え、以下の授業を展開した。

①教科名 「総合的な学習の時間」 (6月)

②題材名 「卒業生の進路に学ぶ」

③題材の目標

卒業生へのインタビュー (DVD) の視聴を通して卒業生たちから学んだことを今後の中学校生活に生かし、卒業後の進路選択に結びつけることができる。

④単元の指導計画 (10 時間扱い)

| 学 習 内 容 | 時 数 |
|----------------------------------|---------|
| ・ 中学校卒業後にはどんな進路があるか、考えてみよう。 | 2 |
| ・ 卒業生の進路に学ぶ。 | 1 (本 時) |
| ・ 卒業生のアドバイスを参考に、自分の考える進路について調べる。 | 2 |
| ・ 「上級学校訪問」に向けて (事前・事後学習、掲示活動を含む) | 5 |

⑤本時の指導

ア 目標

- ・卒業生のインタビューを視聴し、進路について興味・関心を示すことができる。
- ・進路を決める時に大切なことや、これからの中学校生活でとりくむ必要があることを発表することができる。

イ 展開

| 過程 | 学習内容と活動 | 教師の支援及び指導上の留意点 (○: 評価、【】: 方法) |
|------------|---|---|
| 導入 (5) | <p>・卒業後の進路にはどんな選択肢があるか確認。</p> <p>就職 進学：高校、専門学校 特別支援学校</p> | <p>・特活ファイルを開いて見てもよい。</p> <p>○意欲的に発表しているか。 【発表】</p> <p>・卒業生のインタビューを視聴する旨を伝え、期待感が高まるようにする。 【T1】</p> |
| 展開 (30) | <p>— 目 標 —</p> <p>卒業生のインタビューを見て、これからの生活を考えよう。</p> <p>・卒業生3人のインタビューをDVDで見る。</p> <p>— インタビューの内容 —</p> <p>Q1：進路先と現在の生活の様子 Q4：中学校時代にとりくむ必要があること Q2：その進路先を選んだ理由 Q5：後輩たちに伝えたいアドバイス Q3：中学校時代にやって良かったこと</p> | <p>・どの卒業生も共通の質問内容で答えていることに気づくことができるようにする。</p> |
| | <p>①特別支援学校 (高等部) 卒業生F</p> <p>②高等特別支援学校 (職業科) 卒業生G</p> | <p>・個別の目標に応じ、回答方法の異なるワークシートを配布する。(資料2)</p> <p>・生徒AはFによく声をかけてもらい、信頼している。意欲的に参加できるよう、最初に上映する。</p> <p>【Aの隣に座り、発表カードを準備する：T2】</p> <p>・生徒Eは一度にたくさん覚えるのが苦手なので、簡潔に話すFのDVDでメモを取ることで、ペースをつくれるよう言葉がけをしていく。 【T1】</p> <p>・生徒DはFを慕っていたので、特に「志願理由」や「後輩へのアドバイス」の部分に注目できるように、シート上に選択肢を多く提示しておく。</p> <p>・生徒Cは最近、Gの進学先について興味・関心を強く示しているため、集中してとりくめるよう、言葉がけをする。 【T1】</p> |

| | <p>③今春、高校卒業後、就職 卒業生H</p> <p>・ワークシートのQ1～5の項目に内容を記入し、自分の意見や感想もまとめる。</p> | <p>・直接の面談はないが、生徒Bには、Hは今後の生活のモデルにしたい卒業生である。進路選択の理由や中学校時代にやるべきことを中心にメモできるように枠を広めたワークシートを配付する。(資料2)</p> <p>・必要に応じてDVDを一時停止して、メモをとりやすくする。</p> <p>○ワークシートに必要な事項がまとめられたか。</p> <p>【対話・机間指導】</p> | | | | | | | | | | | | |
|---------------------|--|---|----|-------------------|---|------------------------------|---|----------------------------|---|--------------------------------------|---|---|---|--|
| <p>まとめ (15)</p> | <p>・ワークシートの課題について確認する。</p> <p>・進路選択に必要な考え方や大切だと思うことを発表する。</p> <p>・次時の予告： 「上級学校訪問」の学習について</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>< 普通高校 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・千葉A高等学校(公立) ・千葉B大学附属高等学校 (私立) <p>(2学年行事として実施)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>< 職業高校 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・C高等学校(公立) <p>(校外学習で実施)</p> </div> | <p>○積極的に発表できたか。【挙手・カードを黒板に貼る】</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">生徒</th> <th style="width: 90%;">各項目に対する回答・想定される行動</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">A</td> <td>①、②については、前に出て写真やカードを使って発表する。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">B</td> <td>進路選択をする際の理由や考え方に注目して、発表する。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">C</td> <td>目標とするGからのアドバイスの内容に注意して聞き取り、シートに記入する。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">D</td> <td>全ての項目の選択肢に○をつけ、前向きにとりくむ。特に卒業生の進路先や中学校時代にとりくむ必要があることを発表する。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">E</td> <td>通常学級からの転籍生徒であるので、共通点の多いHの考え方から大切な部分を聞き取り、発表する。</td> </tr> </tbody> </table> <p>・発表者の意見や感想を板書する。 【T1】</p> <p>・ワークシートの拡大版を黒板に貼っておき、カードで発表する生徒のコーナーを準備しておく。 【T2】</p> <p>・答えだけでなく、DVDを見た感想や進路選択で大切だと思うことも言えるように働きかける。 【T1】</p> | 生徒 | 各項目に対する回答・想定される行動 | A | ①、②については、前に出て写真やカードを使って発表する。 | B | 進路選択をする際の理由や考え方に注目して、発表する。 | C | 目標とするGからのアドバイスの内容に注意して聞き取り、シートに記入する。 | D | 全ての項目の選択肢に○をつけ、前向きにとりくむ。特に卒業生の進路先や中学校時代にとりくむ必要があることを発表する。 | E | 通常学級からの転籍生徒であるので、共通点の多いHの考え方から大切な部分を聞き取り、発表する。 |
| 生徒 | 各項目に対する回答・想定される行動 | | | | | | | | | | | | | |
| A | ①、②については、前に出て写真やカードを使って発表する。 | | | | | | | | | | | | | |
| B | 進路選択をする際の理由や考え方に注目して、発表する。 | | | | | | | | | | | | | |
| C | 目標とするGからのアドバイスの内容に注意して聞き取り、シートに記入する。 | | | | | | | | | | | | | |
| D | 全ての項目の選択肢に○をつけ、前向きにとりくむ。特に卒業生の進路先や中学校時代にとりくむ必要があることを発表する。 | | | | | | | | | | | | | |
| E | 通常学級からの転籍生徒であるので、共通点の多いHの考え方から大切な部分を聞き取り、発表する。 | | | | | | | | | | | | | |

ウ 本時の評価

- ・卒業生のインタビューを視聴し、進路について興味・関心を示すことができたか。
- ・進路を決める時に大切なことや、これからの中学校生活でとりくむ必要があることを発表することができたか。

⑥授業を終えて

ア 生徒の変容

- 普段の活動では消極的な生徒D・・・ 久しぶりにお世話になった卒業生の顔を見て最初から意欲的に授業に臨んでいた。全ての設問に答えることができ、満足できたようである。
- 今年度転籍してきた生徒E・・・・・・ 夏季休業中に行われた「特別支援学級合同進路説明会」に参加した。卒業生Hの進学した高校の説明を聞き、自分の知らない進路の考え方に触れたことで、早く自分に合った道を見つけたいと話していた。
- 生徒B, C, E・・・・・・ 本校で一斉に行われている夏季休業中の学習相談（1日3時間）に積極的に参加した。卒業生の受検に向けた学習の考え方が理解できていた。

イ 本授業の振り返りから

- わずか3人のDVDによるインタビューであるが、こまめに映像を止めて確認することで、ほぼ全員への情報伝達の目的は達せられたと考える。
- 授業での反応から、それぞれの生徒たちにプラスの変容が見られ、手応えが感じられた。
- 本時間中だけではワークシートへの記入状況の確認にとどまってしまった。
- 「進路選択で大切なこと」や「中学校でとりくむ必要があること」の発表については、次時に続きを学習をすることにした。
- インタビューの内容については、振り返りの学習を含めて別紙ワークシート（資料3）を使って2～3時間扱いにする等して、もっと時間をかけて丁寧に扱うべき題材であった。

ウ 授業後のとりくみ

- この後、「上級学校訪問」では現2年生はそれぞれが交流学級で事前学習会に参加し、普通高校について学んだ。（9月）
- 特別支援学級単独の校外学習として「普通科以外の学科を開設している高校への訪問」も行った。（10月）

今後は、卒業生たちからの貴重なアドバイスをしっかりと消化して、より多くの選択肢の中からこれぞと思える進路先を一人ひとりが自己選択、自己決定、自己実現できることを期待している。

(3) 各校でのモデル授業実践について

モデル授業で使用した卒業生へのインタビュー（DVD）やワークシートを用いて各校でも進路に関する学習を行い、実践報告（資料4）してもらった。より多くの生徒からの

反応、成果を情報交換することで個に応じた指導・支援の方法を共有化でき、より効果的な進路に関する学習のあり方が見えてきた。以下に各校の成果、工夫、課題について記す。

① DVD 使用の成果

- ・視聴覚教材を用いることで興味を持ち課題にとりくめた。(3校)
- ・自分の学校の卒業生でなくても、親近感を持ち視聴していた。(2校)
- ・面接のときにこの DVD の卒業生のような受け答えをしようという生徒の発言があった。
- ・進路について前向きな姿勢が見られた。

② 授業をするうえで工夫した点

- ・漢字入りの文章を読むことが不得手でプリント(資料)を自校生徒用に作り直した。(2校)
- ・字が読めない生徒には、プリントの代わりに言葉のやりとりで行った。
- ・プリントの質問項目を精選した。
- ・面接の練習で質問役を生徒が行い、教師が意欲的な生徒とそうでない生徒の役を演じ、良い受け答えについて考えさせた。

③ 実践の成果

- ・熱心に話を聞きながら、プリントにまとめることができた。
- ・進路について自分の感想を述べることができた。
- ・今まで学習の必要性を重視していなかった生徒が、卒業生の話の中で「漢字や読書ががんばってよかった」と発言しているところを見たことで、学習へのとりくみ方に大きな変化が見られた。

④ 課題

- ・1年生のため、話の内容にまだ興味が湧かないようで、この授業の導入部分をさらに工夫すればよかった。
- ・自分の生活や学習を見直すことができたが、行動に移せるかは疑問である。

⑤ どの時間で進路に関する学習を行ったか(実践報告書提出校10校 重複選択あり)

- ・総合的な学習の時間5校 特別活動2校 生活単元学習3校 自立活動2校

⑥ 進路指導における工夫

- ・個別の支援を要する生徒に対して、保護者面談の時に、三者で進路指導を行った。生徒の反応もよく、事務的な確認も同時にできて効率的だった。
- ・卒業後のイメージを持ち合わせていない生徒に対して、フローチャートを書いて解説したり、なつてみたい職業を聞き、「その〇〇になるにはどうすればよいか」という話をしたりした。
- ・高校受験を希望する生徒に対して、進路指導室に行き、高校の情報を集めた。また漫然と高校受験と答える生徒では、入試問題を解かせてみたり、ネットで高校のホームページを見させて自分にあっているかを判断させたりした。
- ・働く意識が低い生徒に対して、なりたい職業などを調べたり、係活動をしっかりやらせたりすることで生活の見直しができるようにした。

4 結論

(1) 研究の成果

①仮説1について

- 実態調査により、各校の指導・支援のとりくみから課題が明確になった。
- 特別支援学級の授業だけでは一般受験に対応できないため、通常学級への授業交流に参加を促したり、夏季休業中に補充学習を行ったりして、より手厚い支援を行っていることがわかった。

②仮説2について

- 身近な存在である卒業生の進路について触れることで、卒業後の姿を思い描き、「今できることは何か」を考える良い機会になった。
- 特別支援学級の設置校が増え、特別支援教育に携わった経験があまりない教員に、どのように進路指導をして行けば良いか、モデルを示すことができた。

③仮説3について

- 生徒の実態に合わせた各校の工夫を研修会の場で協議することで共有化でき、具体的に知ることができた。
- 各校からの情報を得たことで、進路面談に役立てることができた。
- 療育手帳を取得できない生徒や持たない生徒の指導について、どのような進路があり、そのためにどのような指導・支援をしていけばよいか、経験豊かな指導実践を共通理解・共有化を図れた。
- サポート校や公立高校の定時制など、広く最新の進路情報を収集することができた。

生徒、保護者、教員が共にめざすところは、卒業後の「自己実現」と「社会参加」を図ることであると再認識することができた。

(2) 今後の課題

進路に関する学習というと3年生を想定するが、高等部の学校見学会などでは、3年生に限らず公開している学校もあり、保護者とともに多種多様な進路があることを周知させたい。

3年間を見通した指導計画を作成し、発達段階や学校行事を考慮し、時期に見合った進路指導を行い、生徒自身が「社会の中で働く自分」を考えられるように働きかけていく必要がある。

また、進路の選択は一人ひとり異なり、本人の希望はもちろん、家庭の状況や保護者の意向、生徒の障害の程度（療育手帳の有無等）によっても変わってくる。将来に関わる内容もあるため、保護者との連携が欠かすことはできない。進路指導は、家庭と協力し、学校生活全般においてとりくまなければならない課題である。生徒一人ひとりに合わせた教材開発や支援方法、新しい情報収集など、教職員どうしの連携を図り、共に話し合い、より良い指導・支援のあり方を模索していく必要がある。



代表校による提案授業



各校でモデル授業実践後の情報交換会

資料編

《資料1》

市教研 特別支援教育部会 Bブロック
1月例会用 アンケート

学校No () 学校名

中学校

〈市教研 Bブロックテーマ〉

「個に応じた表現力を育てるための支援のあり方」

〈県教研に向けたテーマ〉

「特別支援学級に在籍する生徒にとって、より効果的な進路学習の指導や支援について」

○「平成28年度中に指導した、する予定の進路学習について」(複数回答可)

| |
|---|
| ①学習時期及び期間はいつですか？ |
| ②どの授業(教科名)で展開しましたか？ |
| ③どのような内容で展開しましたか？ |
| ④授業を行う上で、“教材や言葉かけ等”、配慮した点があればどのようなことでも結構ですのでご記入下さい。 |
| ⑤進路学習の指導をされていて悩んでいること、相談したいこと |

【資料 2】

提案授業で使用した個別のワークシート

そつぎょうせい しんろ まな
『卒業生の進路に学ぶ』

【金付配付用】

()年()組 氏名()

| | しんろ さき Q1: 今の進路先 | えら りゆう Q2: 選んだ理由 | よ Q3: やって良かった | よ Q4: やれば良かった | Q5: アドバイス |
|----|---------------------|---------------------|------------------|------------------|-----------|
| 1. | | | | | |
| 2. | | | | | |
| 3. | | | | | |

そつぎょうせい しんろ まな
『卒業生の進路に学ぶ』

【A】

()年()組 氏名()

| | しんろ さき Q1: 今の進路先 | えら りゆう Q2: 選んだ理由 | よ Q3: やって良かった | よ Q4: やれば良かった | Q5: アドバイス |
|----|--|---|--|---|--|
| 1. | <ul style="list-style-type: none"> 千葉県立千葉特別支援学校 市川大野高等学校 千葉県立生涯高等学校 株式会社 JFE | <ul style="list-style-type: none"> 就職を目的にしていたので、自分に合った学校だから。 ここには自分のやりたい仕事があったから。 | <ul style="list-style-type: none"> テニス部を3年間続けた。 英 語 部 を3年間続けた。 文武両道で体力がついた。 英語の勉強を頑張った。 部 活 を作ったこと。 | <ul style="list-style-type: none"> もっと 作業をやればよかった。 中学校の国語の読み物をたくさん読んでおけば良かった。 | <ul style="list-style-type: none"> 体力、勉強を頑張って。 社会のニュースがっこうしらべ |
| 2. | <ul style="list-style-type: none"> 千葉県立千葉特別支援学校 市川大野高等学校 千葉県立生涯高等学校 株式会社 JFE | <ul style="list-style-type: none"> 就職を目的にしていたので、自分に合った学校だから。 ここには自分のやりたい仕事があったから。 | <ul style="list-style-type: none"> 英語部を3年間続けた。 国語や数学の学習 かんぱん 部 活 を作ったこと。 | <ul style="list-style-type: none"> 作業をたくさんやる。 もっと 漢字をやる。 興味のあることに積極的に取り組む。 国語の読み物をたくさん読んでおけば良かった。 | <ul style="list-style-type: none"> 体力、勉強を頑張って。 社会のニュースをっとく 学校調べを新聞のいく 誌 バスや電車に乗れる。 |
| 3. | <ul style="list-style-type: none"> 千葉県立千葉特別支援学校 市川大野高等学校 千葉県立生涯高等学校 株式会社 JFE | <ul style="list-style-type: none"> 自分への挑戦 ははおや らく 母 親を 楽にしたかった。 | <ul style="list-style-type: none"> テニス部を3年間続けた。 同じ事をやり続けること。 英語部を3年間続けた。 | <ul style="list-style-type: none"> 興味のあることに積極的に取り組む。 中学校の国語の読み物をたくさん読んでおけば良かった。 | <ul style="list-style-type: none"> 次の進路 につながる 自分を 信じる |

そつぎょうせい しんろ まな
『卒業生の進路に学ぶ』

〔B〕

()年()組 氏名()

| | Q1:今の進路先 | Q2:選んだ理由 | Q3:やって良かった | Q4:やれば良かった | Q5:アドバイス |
|----|--|----------|--|---|----------|
| 1. | <ul style="list-style-type: none"> 千葉県立千葉特別支援学校 市川大野高等学園 千葉県立生涯高等学校 株式会社 JFE | | <ul style="list-style-type: none"> テニス部を3年間続けた。 同じ事をやり続けること。 美術部を3年間続けた。 交流体育で体力がついた。 国語や数学の学習 職業実習 入試のための面接練習 着校を行ったこと。 | <ul style="list-style-type: none"> もっと作業をたくさんやればよかった。 もっと漢字をやればよかった。 興味のあることに積極的に取り組む。 中学校の国語の読み物をたくさん読んでおけば良かった。 | |
| 2. | <ul style="list-style-type: none"> 千葉県立千葉特別支援学校 市川大野高等学園 千葉県立生涯高等学校 株式会社 JFE | | <ul style="list-style-type: none"> テニス部を3年間続けた。 同じ事をやり続けること。 美術部を3年間続けた。 交流体育で体力がついた。 国語や数学の学習 職業実習 入試のための面接練習 着校を行ったこと。 | <ul style="list-style-type: none"> もっと作業をたくさんやればよかった。 もっと漢字をやればよかった。 興味のあることに積極的に取り組む。 中学校の国語の読み物をたくさん読んでおけば良かった。 | |
| 3. | <ul style="list-style-type: none"> 千葉県立千葉特別支援学校 市川大野高等学園 千葉県立生涯高等学校 株式会社 JFE | | | | |

そつぎょうせい しんろ まな
『卒業生の進路に学ぶ』

〔C〕

()年()組 氏名()

| | Q1:今の進路先 | Q2:選んだ理由 | Q3:やって良かった | Q4:やれば良かった | Q5:アドバイス |
|----|--|---|--|---|--|
| 1. | <ul style="list-style-type: none"> 千葉県立千葉特別支援学校 市川大野高等学園 千葉県立生涯高等学校 株式会社 JFE | | | | |
| 2. | <ul style="list-style-type: none"> 千葉県立千葉特別支援学校 市川大野高等学園 千葉県立生涯高等学校 株式会社 JFE | | | | |
| 3. | <ul style="list-style-type: none"> 千葉県立千葉特別支援学校 市川大野高等学園 千葉県立生涯高等学校 株式会社 JFE | <ul style="list-style-type: none"> 就職を目的にしていたので、自分に合った学校だから。 どこまでできるか、自分への挑戦 ここには自分のやりたい仕事があったから。 母親を喜ばせたかった。 | <ul style="list-style-type: none"> テニス部を3年間続けた。 同じ事をやり続けること。 美術部を3年間続けた。 交流体育で体力がついた。 国語や数学の学習 職業実習 入試のための面接練習 着校を行ったこと。 | <ul style="list-style-type: none"> もっと作業をたくさんやればよかった。 もっと漢字をやればよかった。 興味のあることに積極的に取り組む。 中学校の国語の読み物をたくさん読んでおけば良かった。 | <ul style="list-style-type: none"> 体力をつけたり、勉強をしっかりやっておく。 社会のニュースを知る。 学校調べを納簿のいく送やる一人でバスや電車に乗れるようにしておく。 次の進路につながるよう考える。 自分を信じること |

そつぎょうせい しんろ まな
『卒業生の進路に学ぶ』

(D)

()年()組 氏名()

| | しんろ さき Q1:今の進路先 | えら りゆう Q2:選んだ理由 | よ Q3:やって良かった | よ Q4:やれば良かった | Q5:アドバイス |
|---|--|---|--|---|--|
| ① | <ul style="list-style-type: none"> 千葉県立千葉特別支援学校 市川大野高等学校 千葉県立生涯高等学校 株式会社 JFE | <ul style="list-style-type: none"> 就職を目的にしていたので、自分に合った学校だから。 どこまでできるか、自分への挑戦 ここには自分のやりたい仕事があったから。 母親を喜ばしたかった。 | <ul style="list-style-type: none"> テニス部を3年間続けた。 同じ事をやり続けること。 美術部を3年間続けた。 交流体育で体力がついた。 国語や数学の学習 調理実習 入試のための面接練習 看板を作ったこと。 | <ul style="list-style-type: none"> もっと作業をたくさんやればよかった。 もっと漢字をやればよかった。 興味のあることに積極的に取り組む。 中学校の国旗の読み物をたくさん読んでおけば良かった。 | <ul style="list-style-type: none"> 体力をつけたり、勉強をしっかりとやっておく。 社会のニュースを知る。 学校調べを納得のいく迄やる 一人でバスや電車で乗れるようにしておく。 次の進路につながるように考える。 |
| ② | <ul style="list-style-type: none"> 千葉県立千葉特別支援学校 市川大野高等学校 千葉県立生涯高等学校 株式会社 JFE | <ul style="list-style-type: none"> 就職を目的にしていたので、自分に合った学校だから。 どこまでできるか、自分への挑戦 ここには自分のやりたい仕事があったから。 母親を喜ばしたかった。 | <ul style="list-style-type: none"> テニス部を3年間続けた。 同じ事をやり続けること。 美術部を3年間続けた。 交流体育で体力がついた。 国語や数学の学習 調理実習 入試のための面接練習 看板を作ったこと。 | <ul style="list-style-type: none"> もっと作業をたくさんやればよかった。 もっと漢字をやればよかった。 興味のあることに積極的に取り組む。 中学校の国旗の読み物をたくさん読んでおけば良かった。 | <ul style="list-style-type: none"> 体力をつけたり、勉強をしっかりとやっておく。 社会のニュースを知る。 学校調べを納得のいく迄やる 一人でバスや電車で乗れるようにしておく。 次の進路につながるように考える。 |
| ③ | <ul style="list-style-type: none"> 千葉県立千葉特別支援学校 市川大野高等学校 千葉県立生涯高等学校 株式会社 JFE | <ul style="list-style-type: none"> 就職を目的にしていたので、自分に合った学校だから。 どこまでできるか、自分への挑戦 ここには自分のやりたい仕事があったから。 母親を喜ばしたかった。 | <ul style="list-style-type: none"> テニス部を3年間続けた。 同じ事をやり続けること。 美術部を3年間続けた。 交流体育で体力がついた。 国語や数学の学習 調理実習 入試のための面接練習 看板を作ったこと。 | <ul style="list-style-type: none"> もっと作業をたくさんやればよかった。 もっと漢字をやればよかった。 興味のあることに積極的に取り組む。 中学校の国旗の読み物をたくさん読んでおけば良かった。 | <ul style="list-style-type: none"> 体力をつけたり、勉強をしっかりとやっておく。 社会のニュースを知る。 学校調べを納得のいく迄やる 一人でバスや電車で乗れるようにしておく。 次の進路につながるように考える。 自分を信じること |

そつぎょうせい しんろ まな
『卒業生の進路に学ぶ』

(E)

()年()組 氏名()

| | しんろ さき Q1:今の進路先 | えら りゆう Q2:選んだ理由 | よ Q3:やって良かった | よ Q4:やれば良かった | Q5:アドバイス |
|---|--|---|--|---|--|
| ① | <ul style="list-style-type: none"> 千葉県立千葉特別支援学校 市川大野高等学校 千葉県立生涯高等学校 株式会社 JFE | <ul style="list-style-type: none"> 就職を目的にしていたので、自分に合った学校だから。 どこまでできるか、自分への挑戦 ここには自分のやりたい仕事があったから。 母親を喜ばしたかった。 | <ul style="list-style-type: none"> テニス部を3年間続けた。 同じ事をやり続けること。 美術部を3年間続けた。 交流体育で体力がついた。 国語や数学の学習 調理実習 入試のための面接練習 看板を作ったこと。 | <ul style="list-style-type: none"> もっと作業をたくさんやればよかった。 もっと漢字をやればよかった。 興味のあることに積極的に取り組む。 中学校の国旗の読み物をたくさん読んでおけば良かった。 | <ul style="list-style-type: none"> 体力をつけたり、勉強をしっかりとやっておく。 社会のニュースを知る。 学校調べを納得のいく迄やる 一人でバスや電車で乗れるようにしておく。 次の進路につながるように考える。 |
| ② | <ul style="list-style-type: none"> 千葉県立千葉特別支援学校 市川大野高等学校 千葉県立生涯高等学校 株式会社 JFE | <ul style="list-style-type: none"> 就職を目的にしていたので、自分に合った学校だから。 どこまでできるか、自分への挑戦 ここには自分のやりたい仕事があったから。 母親を喜ばしたかった。 | | | <ul style="list-style-type: none"> 体力をつけたり、勉強をしっかりとやっておく。 社会のニュースを知る。 学校調べを納得のいく迄やる 一人でバスや電車で乗れるようにしておく。 次の進路につながるように考える。 |
| ③ | <ul style="list-style-type: none"> 千葉県立千葉特別支援学校 市川大野高等学校 千葉県立生涯高等学校 株式会社 JFE | | | | |

【資料3】

進路学習 (その1) 『進路って何だろう?』

1・2・3年 D組 氏名()

進路 ⇒ これからの生き方 ⇒ 計画を立てる。



働く・職業のことも考えて、次の学校を!

- 1 高校に行きたい。⇒ 試験に合格しなければダメ
- 2 専門学校に行きたい。⇒ 免許(資格)がとれる。

みんなの考える進路は、進学 言います。次の学校に進むからです。

そこで、大切なことは.....

- 1 学校の中身が、自分の興味や関心に合わせているか?
- 2 になりたい職業とつながっているか?
- 3 これからの生き方につながっているか?
- 4 自分の学力に合わせているか? (入試があるぞ!)

<まとめ>

上の1~4のことに気をつけて、

自分の目と耳と足で確かめること!



進路学習 (その2) 『今やっておくことは何?』

1・2・3年 D組 氏名()

1. 卒業した先輩から、たくさんアドバイスをいただきました。これからやっておかなくてはいけないことは、何でしたか。

- ① 勉強 (学習すること).....その理由は?

社会に出たら、はやくないだけの学力が命です。(専門学校を卒業した中で) 実際には学力検査(テスト)があります。
- ② 作業 ・切る 貼る 塗る などの活動を通して、
 手先 や 指先 のトレーニングをするため。
 言われたことがきちんと 実行 できること!
- ③ 運動 ・体力 をつけるため。
 集中力 をつける。(気持ちを切らさない)
 持久力 をつける。(やり続ける力)
- ④ 公共の交通機関を使える ・自力通学 のため。
- ⑤ 社会の ニュース を知る ・世の中の 情報 を集めることが大切。

上の①～⑤のことに気をつけて、

自分の **目** と **耳** と **足** で確かめること！



2. 高校へ行く方法は、 **3つ** ありますよ。

| スタイル | 定員 | 学校の様子や特徴 | 学ぶ年数 |
|------|---------|--|------------------------------|
| ①全日制 | 240～280 | 8:40始業 6時間 | 3年間 |
| ②定時制 | 午前 70 | 8:40始業 4時間 午後の時間は自由 | 4年間 |
| | 午後 70 | 12:55始業 4時間 午前&夜の時間は自由 | 4年間 |
| | 夜間 70 | 17:20始業 (登校すると給食あり) 4時間。 昼間アルバイトする人も多い。 | 4年間 |
| ③通信制 | 500人前後 | 家で自習。年に数回学校に行く。レポート提出や先生との面談。分からない所は、先生に教わることもできる。 | 4年間 1,2,3, 4,9月 に入試 |

※ ①～③のどのやり方でも、卒業すれば、高等学校(通信制)の卒業資格がもらえます。

進路学習実践報告

() 中学校

1. 秋葉先生の授業を受けて実施したことについて (実施していなければとぼしてください)

| | | |
|-----------------------------|-------------------|-------------|
| ①VTR使用の成果 | | |
| ②「表現力」を育てるためにどのような工夫をしましたか？ | どのような生徒に | どのような工夫 |
| | 例) 言葉が出にくい | 例) 選択肢を増やした |
| | | |
| | | |
| ③自校で行った工夫は何ですか？ | 例) 自校の卒業生のVTRも入れた | |
| | | |
| ④実践の成果、課題 | | |

2. 進路学習全般について

| | | |
|------------------------------------|------------------------------------|-----------------|
| ①進路学習をおこなった時間 | 総合 特活 生単 自立 その他 () | |
| ②進路学習における支援について、どのような工夫をおこなっていますか？ | どのような生徒に | どのような工夫 |
| | 例) 進路への関心がやすい | 例) 職場実習の回数を増やした |
| | | |